

## 2012 年度 小委員会活動成果報告

(2013 年 1 月 10 日作成)

小委員会名	都市と親水小委員会	主 査 名：畔柳昭雄 就任年月：2009 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (水環境運営委員会)	委員長名：佐土原 聡 主 査 名：大塚雅之
設 置 期 間	2009 年 4 月 ～ 2013 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 親水空間のあり方に関する工学的視点とデザインの視点双方からの考究</li> <li>・ 環境と防災の共立を目指した、都市の水辺のあり方の検討</li> </ul>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有	
	主査：畔柳昭雄 (日本大学) 幹事：坪井壺太郎 (日本大学) 委員：村川三郎 (広島大学)・上山肇 (江戸川区役所)・市川尚紀 (近畿大学)・山田圭二郎 (京都大学)・菅原遼 (長谷工コーポレーション)・大橋南海子 (まちづくり工房)・岡村晶義 (アトリエ鯨)・新上敏彦 (広島市役所)	
設置 WG (WG 名：目的)		
2012 年度予算	60,000 円	ホームページ公開の有無： 無 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料は除)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	2013 年 7 月発刊予定の書籍「都市と親水ー時代と場所から考える新たな水辺ー」の編纂にあたり、委員会における検討のほか、京都において委員合同による「都市」「親水」「建築」に関する現地巡検を実施した。
委員会活動の問題点 ・ 課題	東日本大震災を踏まえた都市と親水のあり方の再検討

- \* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- \* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学本委員会用 自己評価欄

## 2012 年度 小委員会活動 自己評価

### (中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">A</span> <span>B</span> <span>C</span> <span>D</span> </div>
<b>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</b>	<p>都市と親水小委員会では、主として1980年代以降に隆盛した「親水」を人と街、建築の中に位置づけ、これらを工学的視点とデザイン的視点の双方から検討を行った。前身の「都市と水小委員会」で刊行した「水辺のまちづくりー住民参加の親水デザイナーー」において、親水と参加を中心としてとらえたが、後継にあたる「都市と親水小委員会」では、親水の場をそれぞれ時代と場所に分類したうえでその在り方や課題に関する検討を行い、書籍「都市と親水ー時代と場所から考える新たな水辺ー」の刊行にむけた議論を定例委員会において行った。本書では、「親水」の成立過程(時代)軸を踏まえ、それらが存在する(場所)を関連させて構成を行い、親水のあり方自体を総括すると同時に、今後の方向性についての検討を行うものとして取組みを行った。</p> <p>2009年度：水辺の社会実験に関する現地調査(水都大阪2009)委員会5回            2010年度：水辺の社会実験に関する調査研究(シンポジウム開催)委員会5回            2011年度：江戸川区における親水公園模型の展示会 委員会5回</p> <p>※2012年度委員会開催状況            第01回委員会(2012年04月23日)書籍構成案検討            第02回委員会(2012年07月09日)書籍原案提出・検討            第03回委員会(2012年09月15日)書籍原案提出・検討 タイトル検討            第04回委員会(2012年12月17日)書籍原案提出・検討            第05回委員会(2013年03月04日)内部査読結果検討・校正作業</p> <p>※ 第03回委員会においては、京都にて開催し、都市・親水および建築のあり方についての現地巡検を行い、鴨川における納涼床のほか、琵琶湖疏水、無隣庵における庭園と導水に関する議論を行った。</p> <p>※ 第03回委員会の開催と合わせ、都市と親水小委員会構成メンバー所属の大学・研究室の学生による合同研究発表会を通して研究交流を行った。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価(シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など)に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。